

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa5880m付近の正渦度帯に沿う前線が対馬近海～西日本～伊豆諸島近海に停滞。東シナ海から西日本の前線に向かう下層暖湿気はやや弱まっているが、西日本では強い雨を観測。
- ② 台風第10号は華南を北上。この東に位置する華南～華中では、①の正渦度帯につながる雲バンドとして東シナ海から西日本付近にのびている。
- ③ 日本海中部には500hPa 5820m付近のトラフがあってゆっくり東進。トラフの影響で前線の北側でもやや強い雨や強い雨を解析している。
- ④ 大型で猛烈な台風第9号が、マリアナ諸島を西に進んでいる。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

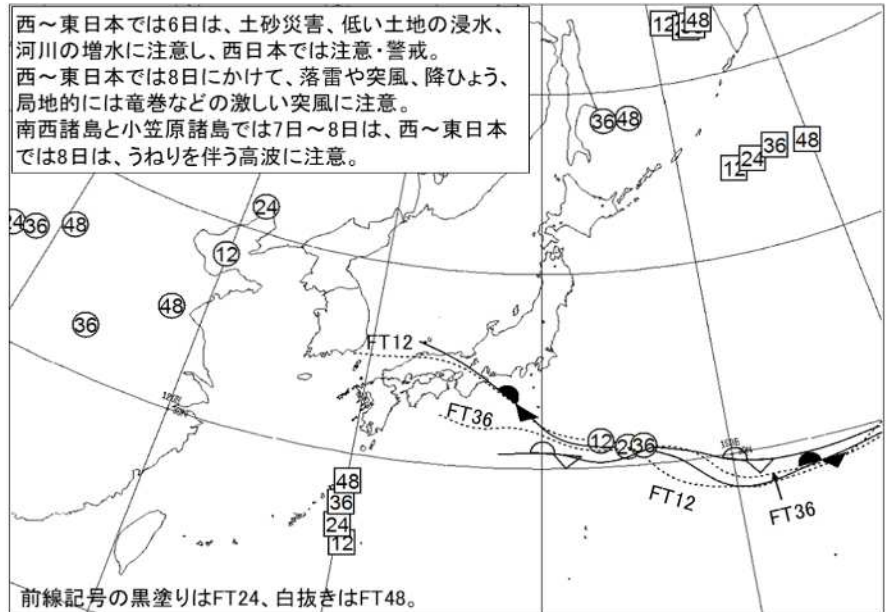
- ① 1項①の前線は、6日は西日本から伊豆諸島近海にほぼ停滞する。前線の南側では6日夜にかけて西日本を東進する浅いトラフに伴い、局地的に対流雲が発達して大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨や非常に激しいの降る所がある。西～東日本では6日は土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意し、西日本では注意・警戒。また、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。その後沖縄の南の高気圧が北に移動し、1項②の大陸からのびる正渦度帯は中国東北区の寒冷渦に向かうようになり、西から前線に向かう下層暖湿気の流れ込みが弱まって、本州付近の前線は不明瞭になる見込み。
- ② 1項③のトラフは7日にかけて日本の東に進むが、千島の東の高気圧から流れ込む湿った空気や、2項①の前線付近の下層暖湿気の影響が残り、日中の気温上昇もあって、8日にかけて大気の状態が不安定となる所がある。西～東日本では8日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項④の台風第9号は、8日にかけてマリアナ諸島からフィリピンの東を西北西進し、南西諸島から次第に台風周辺を波源とするうねりが到達し、南西諸島ではしける所がある。南西諸島と小笠原諸島では7日～8日は、うねりを伴う高波に注意。西～東日本の太平洋側では前線付近を除いて風の弱い所が多いが、7日以後は、うねりによるやや高い波に留意し、8日は高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考にする。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量 (18時からの24時間) : 多い所 (100mm以上) はない。
- ② 波浪 (明日まで) : 沖縄3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図